

経済・産業対策特別委員会県内調査報告書

平成29年11月6日（月）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 水産技術センター、葉山ステーション
- (2) 出席委員 近藤委員長、山口(貴)副委員長、
武田、市川、加藤(元)、持田、石川(裕)、斉藤(た)、松崎、高橋(稔)、
高橋(延)の各委員
- (3) 調査日 平成29年11月6日(月)

2 水産技術センター

(1) 調査目的

水産技術センターは、本県の水産業の振興に必要な試験研究、普及指導、漁業無線及び漁業の取締りを目的に明治45年に設置された施設であり、研究開発等を通じて水域環境保全と再生、水産資源の持続的利用の促進、県民への魅力的な水産物の提供を目指している。

そこで、水産技術センターでの近年の主な研究成果を調査することにより、今後の水産振興の取組に関する委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

磯焼けの原因生物として排除されるムラサキウニと、三浦特産のキャベツなどの野菜残さの有効利用を図るため、キャベツで育てるムラサキウニの養殖試験を行い、ウニの身入り前の3月から飼育を始め、4月からキャベツを与えて育てると、可食部の身が大きくなり、さらに甘みが強くなることが確認された。これによって磯焼け対策と地域の新たな商品となることが期待されている。

また、三浦商工会議所等から三崎や城ヶ島の新たな観光土産の開発について依頼を受け、低脂肪マグロであるビンナガマグロを原料としたマグロ・コンフィを開発し、三浦市内の加工業者によって商品化され、平成29年5月に第4回チーム・シェフコンクールの加工品部門で最優秀賞を受賞した。

(3) 主な質疑応答

質 疑 海外視察を受けていると聞いたが、こういった目的で視察されているのか。

応 答 資源管理が代表的な例であり、それから種苗生産技術、放流技術を目的として視察を受けることが多い。

質 疑 視察する国はどこが多いのか。

応 答 特定の国というのはないが、東南アジアやアフリカが多いと感じている。

質 疑 栽培漁業において、稚貝の放流後、サザエの約3割を漁師が採るとのことだが、これを増やしていく工夫があれば教えてほしい。

応 答 放流と資源管理を連携させ、放流した後に管理を効率的にやる資源

管理型栽培漁業という新しい考え方を導入しているが、遺伝的多様性という問題があるため、県内で採ったサザエの卵を使って放流し、自然に同化して自然の中で再生産されるように配慮をした種苗生産をしている。

質 疑 漁業取締船の建造費というのがあるが、取締りはどの程度の頻度で行っているのか。また、海上保安庁による取締りがある中、本県はどのような取締りをしているのか。

応 答 年間110日くらい沖に出て取締りをしている。また、我々の取締りは漁業法や水産資源保護法の中で漁業監督吏員という立場で行っているが、取締りというよりも指導を基本としている。

質 疑 国との予算上の連携はできないのか。

応 答 独立行政法人だが水産研究センターとの連携を行っている。予算的な話として、施設の老朽化、新たな技術への対応、次の種苗を作るには新しい施設が必要。例えば遺伝的多様性への配慮には、新たな施設が必要となる。栽培漁業の施設整備に当たって頑張っていけたらと思っている。

上記以外の質疑については、現場視察中に各自行った。



(4) 調査結果

水産技術センターではムラサキウニの養殖技術開発、マグロ・コンフィなどの三浦地域産品開発研究等の研究開発に重点を置く一方で、研究・行政担当者、水産関係者を対象とした水産技術センター研究発表会や小学生を対象とした城ヶ島の磯で遊ぶ・学ぶ教室を開催することで県内の水産業の普及啓発を行っている。

以上のように、水産技術センターの行う水産業振興の取組を調査したことにより、今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

3 葉山ステーション

(1) 調査目的

葉山ステーションは、葉山町の北東部に位置し、逗葉新道と三浦半島中央道路が交差しており、横浜横須賀道路、逗葉新道を利用して葉山町を訪れる人々の玄関口となっている。そのため、葉山町の都市計画マスタープランでは葉山ステーションのある南郷地区を「地域交流拠点」と位置付け、地域の魅力を高めていくための拠点にふさわしい土地利用への誘導を目指すこととしている。

そこで、葉山ステーションの葉山における魅力の発信拠点としての役割を調査することにより、今後の産業振興の取組に関する委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

平成11年、葉桜商店街を中心として、神奈川県中小商業活性化基金助成事業費を活用して、商店街の活性化の必要性、新たな消費者ニーズの発見及び新しい顧客の開発を目的とした「第1回葉山ふれあい夕市」を平成22年まで継続して開催した。その後、一過性のイベントだけでなく、地域住民のための生活便利拠点としての役割を持った、アンテナショップによる地域活性化を目指して葉山南郷地区活性化事業実行委員会による検討を重ね、平成28年9月1日にショッピングプラザ葉山ステーションのグランドオープンを迎えた。

葉山ステーションは、地場食材による飲食の提供、葉山ブランドの販売、葉山・三浦半島の地場産品の直売を行うことで、葉山における魅力の発信基地としての役割を担っている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 葉山ステーションで一番売れているものは何か。

応 答 主に野菜が売れており、野菜を買うお客様が他のものも併せて購入することが多い。

質 疑 売上げ275万円のうち野菜が占める割合というのは、どれくらいになるのか。

応 答 30から40万円程度である。

質 疑 出品するものは農家が独自に決めているのか。

応 答 農家が決めて、葉山ステーションの職員が出品するものを把握する体制をとっている。

上記以外の質疑については、現場視察中に各自行った。



(4) 調査結果

葉山ステーションは、アンテナショップとして葉山を訪れる人に、葉山の魅力を発信するだけでなく、地域住民の生活を支えるために、日用品を取扱うコーナーも併設することで、多くの人に必要とされる施設となっていた。

以上のように、葉山ステーションの行う産業振興の取組を調査したことにより、今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

<参考>

- 1 随行者 星主事（議会局議事課）、古河主幹（政策局総務室）、
岩崎主幹（産業労働局総務室）

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) 水産技術センター
杉浦所長、井上副所長、一色相模湾試験場長、中村栽培推進部長
阿部管理課長、鎌滝船舶課長、山本水産振興担当課長、原専門研究員
 - (2) 葉山ステーション
葉山町商工会長、専務理事、経営指導員